

令和2年度第2回平塚市下水道運営審議会 会議記録

日 時 令和2年11月19日(木) 13:30～15:35

場 所 平塚市役所本館3階302会議室

出席委員 11人

栗原会長、永吉会長職務代理者、石田委員、坂間委員、西田委員、川島委員、大伴委員、露木委員、石黒委員、伊藤委員、塩田委員

事務局 12人

土木部 小林部長

下水道経営課 鳥居課長、清田課長代理、齋藤課長代理、石橋課長代理、關主査、三澤主任、鈴木主任

下水道整備課 勝俣課長、高橋課長代理、生沼課長代理、西山課長代理

傍聴者 0人

1 議題

(1) 平塚市下水道事業経営戦略(素案の案)について

2 その他

配布資料

(1) 令和2年度第2回平塚市下水道運営審議会次第

(2) 平塚市下水道運営審議会委員名簿

(3) 平塚市下水道事業経営戦略(素案の案)

○会議の公開について事務局から説明

これより会長による議事進行。

会長

まず1つ目は、議題の(1)からになります。

「(1) 平塚市下水道事業経営戦略(素案の案)について」です。事務局から説明をお願いいたします。

「(1) 平塚市下水道事業経営戦略(素案の案)について」事務局(下水道経営課課長代理)から平塚市下水道事業経営戦略(素案の案)について説明。

会長

ただいまの事務局の説明について、何か御質問等がありますでしょうか。

委員

ストックマネジメント計画の点検の年度や結果の出し方、優先順位をつけながらやっていくのか伺いたいです。

事務局

市内を10ブロックに分けて点検の優先順位を設定しています。管渠などが古いのを加味してこの現況を決めております。現在着手しているのが優先順位2番目のところになります。次に3番目、4番目という順番を予定しています。

委員

点検が完了したらそこを直そうというよりは、新たに計画を立ててやっていくのでしょうか。

事務局

管口調査は簡易調査でございますので、そこで異常等を感知した時には、管渠内カメラの調査をします。その管渠内カメラというのは、詳細にひび割れが何ミリあるのか、何ミリずれているのか、そういうものが分かります。そういうもののデータを蓄積して、次には重要度などそういうもので、優先する修繕箇所を抽出します。ただし、この

調査の段階で先程みたいに管がつぶれているとか、そういった状況を発見した際には、それは直ちに緊急修繕ということで修繕させていただきます。

委員

経営戦略の方ですが、44 ページの上の部分、前提条件と投資額というところの新規整備分、未普及地域の解消や地震・浸水対策を進めますというところで、浸水対策の現状は、1 時間に 51 ミリという基準でやっていると思いますが、最近の気候変動等を踏まえ、国の方が今年の 6 月に気候変動を踏まえた下水道による都市浸水対策についてという提言を出しています。このような理由でおそらく中期ビジョンに載せていくのだと思いますが、このあたりに気候変動を踏まえた浸水対策を進めますというような言葉を入れておいた方が、分かりやすいのではないかと思います。また、改築更新分というところで耐震長寿命化工事等にも耐水化という言葉やそういった視点、そういう言葉を入れた方がいいのではないかと考えています。平塚市の場合、東部ポンプ場、桜ヶ丘、撫子、徳延あたり耐水化がすごく必要ではないかと思うのですが、そのあたりのことをこれから進めるにあたってのその投資計画 10 年と言うところに耐水化という視点を入れる、そういう言葉を入れた方がいいのではないかと感じましたが、その点いかがでしょうか。

事務局

最初の戦略位置づけあたりでお話したかと思いますが、施設の維持管理や改築工事等については、基本的には中期ビジョンの方の中で位置づけられるということで考えております。戦略については、そのビジョンの将来像を達成するため資金面、お金の面で支えるような計画と考えておりますので、今お話のありました気候変動を踏まえました浸

水対策ですとか、耐水化につきましてはそのお金の面での経営戦略に入れるというよりは、やはり中期ビジョンの中で最初にご説明いたしましたように今年度末から来年度にかけて改定を予定しておりますので、その中でどうするのかというのを話し合っただけで対応していきたいと考えております。

委員

策定にあたって2か所聞きたいと思います。1か所が5ページの位置づけのところですが、今回この経営戦略については、当市の上位計画である総合計画などいろいろな説明が入っている中で、この下水道経営戦略について、中期ビジョンと同等という形で曖昧な位置づけになっているのかなと感じます。通常であれば、大きなビジョンがあっただけで下水道の中期ビジョンと下水道経営戦略が相互に反映しているよというものがあるかと思うのですが、どうしてこういった位置づけになってしまっているのか今後も含めて説明をお願いしたいです。

事務局

今おっしゃっていることが本来の形であろうと考えております。ただ、本来のビジョンは将来のあるべき姿を描くもので、一方、経営目標を実現するための方向を示したものが経営戦略となります。国がガイドラインの中で経営戦略のひな型様式を出しているのですが、その内容も非常にシンプルなものなので中期ビジョンと同じようなレベルに位置づけられる計画というものには実際なっていません。中期ビジョンを策定した時にビジョンの中の下にぶら下がっておりますストマネ、浸水対策、地震対策、これらの計画はまだできておりませんでした。こういう計画物というのは策定した時に、その施策を進捗管理していくために目標設定とか取り組みとかそういうものを位置付けて進捗管理していかな

ければならないものなのですが、当時下にはぶら下がっているこれらの計画ができておりませんでしたので、中期ビジョンそれ自体の中で進捗管理をしなくてはいけないと言うことで、細かい取り組みですとか、指標の設定ですとかそこまで細かく作りこんでしまった状態でございます。そのため、現在の中期ビジョンとの位置づけを表しますと経営戦略の横の位置となってしまうのかなと思います。ただ先程もお話しさせていただきましたように、来年度に向けた中期ビジョンの改定の際には、本来のビジョンは経営戦略の上に位置するべきものと我々も考えてございますので、そういうビジョンに改定し、そのビジョンの斜め下あたりに位置付けるようなお金の面で支える経営戦略という位置付けにしていきたいと考えております。

委員

本当に市民に分かりやすい位置づけというのをしていただければなと思います。もう1つが23ページ、5-9、未接続の現状分析と課題というところで、件数というのは具体的に何をもとにした件数なのかを先に伺いたいと思います。下水道に接続したくても接続できない家庭もかなりあると思います。この説明の欄でいくと、どうしても役所側の考え方であって、利用者側の考え方ではない気がするので、どうしてその数字の出し方であるか伺いたいです。

事務局

農集で言えば接続すべきエリア、手を挙げた人達、エリアの中で最初に分担金などを払っていただいたのですが、まだ接続されていない方の積み上げ、カウントとなっています。公共下水道につきましてもそのエリアにおいて繋いでいる世帯とそのエリアの戸数との差し引きをもととしてその差を接続されていないということの戸数になります。

委員

管路が来てなくて接続できない人は、今回はここには含んでないということですか。そうなると実際に、接続したいという方がいて管路を繋げてくれという方もいらっしゃるわけです。実際 100%を接続したいと市側が言っているのは今の接続率がかなり厳しくなると言っているのかもしれないが、実際その辺を含めた現状の数字を記載していくべきではないかと思います。

事務局

未接続の家屋ということはこの数値でありまして、まだ下水道の管が敷設していないところの戸数につきましては、未普及という位置づけになってきますので、経営戦略には入っておりません。未普及の戸数がどれくらいあるかということについては、中期ビジョンの方の位置づけになりますので、中期ビジョンの未普及の解消の中で数字はお示していきたいと思っております。

委員

14 ページにアンケートされたというところがあるのですが、どれくらいの方にお聞きできたのか、35 ページのところ目標設定で、60 という数字はどこから出てきたものなのか教えていただきたいと思います。情報発信の目標のところでも 36 ページに情報発信について出ていますが、もちろん若い人たちが対象とするのであれば、SNS 投稿件数を増やしていくというのは一つの方法だと思うのですが、5 件というのはどこから出てきた数字なのか、その数字で十分だという根拠が何か教えていただきたいです。

事務局

アンケートの人数は、下水道部署に所属している職員、全員ということで当時は43名にアンケートを取りました。件数の倍増というところですが、予算の制約の問題等がありまして現状よりもう1回くらいは開催しようということでその数字を設定したものです。広報のSNSの関係ですが、SNSの投稿にあたっては、すぐに投稿できる体制になっておらず、あらかじめ広報の方と調整しながら投稿することになっています。元年度につきましては、なかなか投稿すべきものがなかなかなく、いろいろ考えた結果として3件できたのが実績です。コロナとかがなければ今年度もイベント関連で投稿できるのかと思いますが、少し増やしての5件というところで設定しております。反応につきましては、3件投稿した時に同時期に投稿した他課の投稿と比較して一番反応が良かった数字ということで設定させてもらったものです。

委員

各種事情を考慮してとのことですが、やるのであれば意味がある形でやらないと、意味ある形で情報提供しなければ結局関心は高まりません。単なる発信であればあまり意味がないと思うので、件数はいいとしても反応、例えば行政としてこう捉えて欲しいとか使っている人から見てこういうことを知りたかという情報が提供できているのかという良い点での反応をパーセントに上げなければ「いいね」をしてくれた人が何パーセントとか言うのも意味がないかと思いますがいかがですか。

事務局

投稿したいなと考えているときに、結果としてあまり良い素材がなくて出来なかったのですが、例えばマンホールカードなど楽しいものばかりではなく、流してはいけない油

などを流してしまいマンホールが閉塞してしまい、汚水が道路に溢れてしまった時の画像や、影響がこれだけひどいものになってしまうというもの、去年の台風の時のその後の説明会の時に市民の方からのご要望ということで、例えば大雨が降って、そういった情報をタイムリーに出してほしい、という話もあったように思います。SNS も使いながら出していきたいと考えております。今後は適正な利用などの情報も出していきたいと考えておりまして、方法については考えております。

委員

我々水道は本来どういうことをやるべきかというところから情報発信をしていくと、台風の時でタイムリーな情報を発信していくのに広報と調整していく時間はありません。そういう中で、本来やるべきところを求めるのであれば、投稿閲覧の反応について考えるべきではない。市民に関心を持ってもらうというのも大事ですが、台風の時であったら汚水が危ないなど伝えるべきことがあります。我々水道で言うと、例えば断水など、どこどこが危ないなどタイムリーに伝えなければならない、そういう体制をとるとというのが本当に重要なわけで件数だけではないと思います。タイムリーにやるべきことと市民に関心を持ってもらうべきことを整理されて計画を作られた方がいいかなと思いました。

事務局

ホームページに家庭でできる浸水対策というものがあるのですが、非常に見てもらっていて民放のテレビや全国紙の新聞でも取材に来ていただいて注目を浴びています。一方、市民的には浸水対策とかそういう情報を望んでいる、下水道は生活に不可欠で重要な施設だと我々は考えているのですが、市民はその重要性に気が付いているという人が非常に少ない。その下水道の維持にお金がこれからもかかってくると認識してもらうため

に、下水道が生活のインフラとして必要不可欠なものだと、まず知ってほしいです。確かにそういうずれもありますので、その点を踏まえて、指標の設定を変えられるかは検討して、もし変えられるようであれば対応したいと考えておりますので、ご提案があれば非常に助かります。

委員

あるべき姿と妥協でこういうところがあると整理をし、市民に説明していただければいいと思います。

委員

人材育成についてですが、技術系の職員の方の中で優秀な職員がいるのは存じ上げております。全体的に少しずつ技術的に弱くなってきているのではないかという声もいろいろなところで聞かれているかとは思いますが、人材を育てる育て方として土木系は4課あり、その中でももちろん担当長や技術系の職員の方も異動されていますが、これからはスペシャリストを作ろうと思っているのか、それともオールラウンダーを作ろうと思っているのかそのあたりはいかがなものでしょうか。

事務局

オールラウンダーかスペシャリストかのお話ですが、職員課の方では本人の申し出によってスペシャリスト化することも推奨しております。あとは当然土木部部長の立場としては、もちろんスペシャリストの方がいてもいい、ただ今後は維持管理の部分が、下水道に関しては整備をしていくというよりもメンテナンスが中心、そういう中では少しアウトソーシングを視野にいれなければいけないだろうと考えておりますので、そうな

ってくるかどうかというスペシャリストというよりもオールラウンダーの方を含めて対応していくのがいいのかなということを感じています。

委員

4 課の方々というのはある程度横の課の内容というものも存じ上げてないと知りえないと技術的な面に対応できない部分もあるかと思います。横に移動してそれぞれの技術力や知識、経験が積み重なっていくことについては、そうしていただきたいなっております。その中で複数名、その専門的な知識に特化した職員は技術的にはプロ中のプロだと思って育てていただければ、他の課も含めていいのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

事務局

理想は、委員がおっしゃっているようなことがいいと思いますが、職員の人材育成という中でそれを指名してやっていくという制度ではないので、それを自己の判断において、それを選択することは今の職員課の制度としては可能になっております。そういうことも踏まえて職員の選択制の中でそういう対応ができれば一番ふさわしいと感じます。

委員

経営戦略というもののテーマが分からない。使用料は見直さず、今後コストは増えていく。今後コストがどれくらい増えていくか、ストックマネジメントの計算があるのでしょうか、今後の話がこの経営戦略には出ていない。将来どのくらいの事業費の山が来るといふことを実は示してないわけです。この10年間は平塚市の下水道にとって経営は何を、今後のコスト増に向けた骨格作りをしていくのか、それとも何をしていくのか見えない

です。例えば、そういうところの意識が施策の使用料金の見直しの③—1、31 ページの一番上の方に書いてあるんですが、使用料の見直しか、料金体系の見直しか、2つ書いてあって今後の話ですと料金体系の方が大きいだろうと思います。この10年間でコストの縮減にいくのであれば、それが使用料の見直しより上のはずです。この10年間でどのように位置づけて平塚市の下水道をどのように作っていくのかということを経営的に見えないので、それを市民にもっとわかりやすく伝えないと経営戦略をやっている意味がないので工夫をお願いしたいと思います。

事務局

基本的には、国の方から示されている計画期間の収支の金額を確保できるというのが最低限というところはあるのですが、現状平塚市は資料の中にありますように使用料の経費回収率も100%をかなり超えている段階、経常収支を10年確保できるという中で、ただその先については赤字になるだろうということが予測されますので、その次の期間に向けたいろいろな準備、その中では使用料については改定の見直しとか共同化、広域化といった検討の準備期間になってしまったということは正直なところであります。ただ、その中でコストの縮減の優先順位が高いのではないかというその辺につきましても、改めて精査して変えられるところについては変えていきたいと思います。

会長

時間もだいぶ迫ってきましたので、まだいろいろ課題はあるかと思いますが、これからも何かありましたら行政の方にお問合せいただければと思います。以上をもちまして次第の1「平塚市下水道事業経営戦略（素案の案）について」を終わらせていただきます。

次に、議題2の「その他」について、事務局から説明をお願いします。

会長

次に、次第の1「その他」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

今後のスケジュールということでお話をさせていただきます。冒頭部長の方からもありましたようにこの経営戦略（素案の案）につきましては、この後庁内の意思決定の最高機関にあたります庁議にかけます。そこで市長、副市長の承認が出ましたら1月の中旬くらいから2月中旬くらいにかけてパブリックコメントを予定しております。そこでいただいた意見を反映し、修正させていただき、その後の庁議にかける前の3月中旬くらいを予定しておりますが、3回目の審議会を開催させていただきます。日程等につきましては、未定ですので改めてご案内させていただきます。その後3月末くらいにかけて経営戦略を確定させて決裁を取るスケジュールを考えておりますのでよろしくお願いいたします。

事務局の方からは以上です。

会長

ただいまの事務局の説明について、何かご質問等ありますでしょうか。

他にご質問等もないようですので、2「その他」は終わらせていただきます。

委員の皆様には、会議の円滑な議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。